

CASBEE® 新築[簡易版]

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2010年版 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.8)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ジオ阪急洛西口 サウスレジテ	階数	地上10F
建設地	京都府向日市寺戸町七ノ坪110	構造	RC造
用途地域	第2種住居地域、準防火地域	平均居住人員	516 人
気候区分		年間使用時間	8,640 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年11月 0.0	評価の実施日	2016年5月15日
敷地面積	5,248 m ²	作成者	藤井新也
建築面積	2,166 m ²	確認日	2016年6月3日
延床面積	13,981 m ²	確認者	藤井新也

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.2 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%
②建築物の取組み 92%
③上記②以外の 92%
④上記+ 92%

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.1

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.6

LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.8

3 設計上の配慮事項		
総合 注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 ファミリー層向けのニーズに配慮した住戸計画とする。 敷地境界から建物を後退させた部分のランドスケープ計画において、道路の北側隣地とデザイン面で共通化させた修景ブロック、庭園灯、植樹を総合的に計画し、道路に面して一体化した街路を形成している。		その他 注) 上記の6つのカテゴリ以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。
Q1 室内環境 注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 ・ 遮音に関して、T-2仕様のサッシを採用。また、ガラスにはLow-Eペアガラスを採用し、断熱効果にも配慮し	Q2 サービス性能 注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 ・ 特に無し	Q3 室外環境(敷地内) 注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 ・ 道路に面して緑地帯を設けて地域の自然環境へ配慮を行っている。
LR1 エネルギー 注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 京都府条例に基づき、太陽光発電設備を設置。	LR2 資源・マテリアル 注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 ・ 特に無し ・ 京都府条例に基づき、京都府産木材を住戸内に一部使用。	LR3 敷地外環境 注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 ・ 十分な駐輪、駐車台数の確保により、周辺への交通負荷を抑制している。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される